

2021年度 名古屋芸術大学 入学試験問題  
総合型選抜「AO 入学試験 1期」

## 入試問題提出様式

試験科目：「小論文」

日 程：2020年10月17日(土)

試験時間：50分 / 解答字数：800字程度

---

芸術 学部 芸術 学科 デザイン領域

対象コース： 全コース (※ 文芸・ライティングコースを除く)

---

### 【問題】

次の文章を読んで、後の設問に答えなさい。

まちは誰のもの？

市民の視点で地域社会を考えてみよう

南米のコロンビアという国にメディジンという都市があります。メディジンは麻薬組織の拠点があり、殺人も多い危険なまちとして知られていました。取り締まりをしてもいたちごっこでした。メディジン市では、このような状況を改善するため、そこに暮らす人々のあり方を見直すことから始めました。市内に広がるスラム街は麻薬の温床おんしょうでした。居住者の多くは仕事もなく、無職の家庭の子どもたちは働くことを知らず、貧困の連鎖からなかなか抜け出せません。

市では、貧困解消と教育の普及を都市再生の軸に置き、貧困層の多い地域に新しい公共交通としてロープウェイを走らせ、5つの新しい図書館を建てました。これがきっかけとなって急激に治安が改善され、経済活動も進展するなど、大きな成果が生まれました。

人は誰でも、地球上のどこかに住んでいます。それぞれの住む地域に特有の環境があり、各々の風土とともに人が暮らし、そこで育まれる文化がありますが、水面下には貧困やホームレス、移民、孤独死、子育てのしにくさなどさまざまな問題があることはみなさんもお存知でしょう。

この事例からは、麻薬問題を生じさせる根本にある貧困という課題に着目し、その解決方法を目に見える形でまちの中に示したことで、地域社会が変化していったことがわかります。

私たちの暮らす地域をより良くしていきたいという大小さまざまな試みが増えています。イギリスのトッドモーデンというまちでは、まちの公共空間でハーブや野菜を育て始めました。そこで育った野菜は誰もが採って食べていいのです。自分たちの健康と食を身近な地産地消でまかなう楽しい考え方です。まちのルールを子どもたちも含めて決めていこうという「こども会議」も広がっています。ひとりでご飯を食べる子どもたちが増えているので、安く、あるいは無料でご飯を食べられる「こども食堂」を、いろいろな地域のおばちゃんたちが始めてもいます。空き家が増えてふるさとの景観が変わっていくことに心を痛めた人が、空き家をパンやさんやカフェや、お母さんたちが集まるコミュニティスペースにしている例もあります。壊れた家を修繕するための知識は専門家だのみにせず、まちの人々でももっていよう、という試みもあります。障害のある人たちが働く場所を広げているグループや、障害をもっている人を支えるグループが

---

いるところもあります。また、地域にある資源、例えば森林資源を使って、新しいエネルギーを共同でつくっている村もあります。農業や漁業の生産者と都会の消費者を、IT を使ってつなぐ、新しい循環の仕組みをつくっている人もいます。配達のついでに高齢者が元気かどうかを確認してくれる配達員の人もいます。

現代の私たちの暮らしのほとんどは、お金を出してサービスを提供してもらえれば維持することができます。家にこもってゲームをしてコンビニのご飯を買って暮らすことだってできます。でも、そうした個人中心主義の人たちばかりで暮らすまちでもよいのでしょうか。これらの取り組みはみな地域の中で、困っている人や課題に対して、怒ったり文句を言ったりするのではなく、なぜそれが生じるのか、どうすれば自分も怒ったり文句を言ったりしなくて済むのかを考え、そのためのアイデアを仕組みや行動に転換している事例です。

日本は超高齢化社会といわれ、このままいけば将来は消滅する可能性がある市町村があるとも指摘されています。まちは人がいるからまちなのです。現在も、そしてこれからもどうやったら楽しく暮らせるまちであり続けるか、私たち自身のちょっとした工夫も大切になっています。

【 未来を変える目標 SDGs アイデアブック P110-111

紫牟田 伸子 シビックプライド研究会/編集者/ジャーナリスト より 抜粋】

#### [課題]

本文をふまえて、あなたが日常生活で不満に感じる事柄を挙げ、なぜそのような状況が生じているのか、その背景を考慮したうえで、あなたが考える解決策について 800 文字以内で論じなさい。

#### [出題の意図等]

引用文にも記述されている通り、社会課題はそれ単独で起こっているのではなく、必ずその課題を引き起こしている社会的な背景があります。そうした、課題の根本的な原因である社会的状況にも目を配り、自らの日常的な課題に対して解決策を提案する、デザインの基礎的な想像力、分析力、発想力、論理的説明力を問う出題です。

## 模範解答

私は春先になると毎年、花粉症に悩まされている。私の友人にも花粉症の悩みを抱える人は多い。なぜ私たちは花粉に悩まされるのか、そして、その不満をデザインで解決することは可能か。スギ花粉に代表されるように、花粉症を引き起こす花粉が大量に放出される要因は森林の荒廃にあると指摘される。戦後の高度経済成長期に、建材などの用途を見越し大量に植林されたスギやヒノキであったが、成長し収穫期を迎えた現在、有効に活用されることが難しい状況に置かれている。安価な輸入材に価格面で競争力を失った日本の林業は衰退し、その結果として、花粉症が社会問題化してもなお、戦後につくられた人工林は適切な状態で伐採や手入れをし、新たに生まれ変わらせることが難しくなっている。

花粉症の背景を成す人工林の荒廃を改善するためには、国産材の需要を高め、林業を盛んにする必要がある。そのためには、一定量の木材を定期的に消費することが求められる。そこで、近年注目が集まる薪ストーブに着目したい。日常的に薪を使用する生活は昔のものとなり、電気やガスを使用するライフスタイルが定着しているが、近年では、薪ストーブがもたらす火の安らぎなどから、薪ストーブを設置する家庭も増えている。しかし、まだ高価で扱いが難しいイメージがある。そこで、一般家庭用向けに小型で設置しやすい薪ストーブを提案する。初めて利用する人にも、取り扱いが容易で、安価な薪ストーブをデザインすることで、その普及を促すことが可能ではないか。薪を燃やすことは二酸化炭素量の増加に繋がると考えるかもしれないが、燃焼により放出される二酸化炭素は、本来木材に固定されていたものであり、伐採されたあとに新たな苗木を植え育てることで二酸化炭素が再び固定され、循環する。そうして森林の健全な更新を促すことができる。新たな薪ストーブのデザインにより、日常的に抱く花粉症の不満を解決したい。

2021年度 名古屋芸術大学 入学試験問題  
総合型選抜「AO 入学試験1期」

## 入試問題様式

試験科目：「小論文」

日 程：2020年 10月 17日(土)

試験時間：50分 / 解答字数：800字程度

芸術 学部 芸術 学科 デザイン 領域

対象コース： 文芸・ライティングコース

### [課題]

平成元年以降に発表された文芸作品(小説・戯曲・随筆・詩・絵本・児童文学等)の内、50年後も読みつがれていると思う作品の一つ挙げて下さい。その内容を200字以内で要約すると共に、あなたがその作品を挙げた理由をできるだけ具体的かつ明確に書いて下さい。総文字数：800字程度。

### [出題の意図等]

芸術学科デザイン領域 文芸・ライティングコースでは、将来にわたって書き続ける力を養うために様々な文芸作品を精読し、それらの文体や構造を把握する試みを行っています。ジャンルによって異なる文芸作品の手法や文体を知ること、とりわけ長年にわたって読みつがれてきた古典や、今後も読みつがれるであろう作品に意識を向けることは、本コースに所属する学生が世代を超えた読者を想定して執筆を行うために必要であると考えられます。また、「長年にわたって読みつがれてきた作品」を読み解く際には、そこから「時代を超えた普遍的な主題」を感じ取ることが必要であり、自身が創作を行う際にもまた「普遍的な主題」を言語化することが問われます。そのような理由から、受験者には「50年後も読みつがれていると思う」一作について、古典的作品とも通底する普遍性を見出し、その意義を説得力のある形で論じてもらいたく、本課題といたしました。

## 模範解答

平成以降の文学作品の内、五十年後も読みつがれると考えられる作品は多数あるが、特に今年出版された村上春樹の「猫を棄てる－父親について語る時」は、過去と現代、現代と未来の読者をつなぐ作品として重要であると思われるため、本作品について書いていきたい。

本書は、村上氏と実父との関係を、自身の少年時代の記憶をたどりながら明るみに出してゆく随筆である。自伝的要素を含みながらも、作者がかつて聞いた言葉の断片をつなぎ合わせて想像していく父親の人生は時に曖昧で謎めいており、「猫を棄てる」というタイトルも、なぜ父と一緒に海岸に猫を棄てに行ったのか、そしてなぜその猫が自宅に戻ってきたのか、という「謎」から付けられたものである。

私が村上春樹の「猫を棄てる」を挙げたのは、本作品においては、主に一個人とその家族との関係が描かれているが、その関係には普遍性が含まれているからである。作者は、多くの家族や親子の間にも存在する情による結びつき、あるいは凶らずとも生まれてしまう齟齬や確執を俯瞰的に捉えることで、この作品を単なる自伝的エッセイの枠にとどめず、各々の読者に家族との関係を考えさせる構成になっている。冒頭から中盤にかけて、自身と父親の記憶を一つ一つ丁寧にたどっていく本作品は、最終的にそれらの記憶が様々な偶然の産物であり、解き明かせない側面を含んでいることを明らかにする。その過程を通して、大切なのは謎の解明ではなく、記憶をたどることで過去に思いをはせ、記憶を通して未来の人間を想像すること、そして今ここに自分がいることの大切さを教えてくれる本である。

また、本書は読者に語りかけるような温かい文体で書かれており、ノスタルジックなイメージの挿絵も添えられている。百ページ程度の短い作品でありながら、一つ一つの言葉は詩的で、繰り返し読みたいリズムを含み持っている。

以上の理由から、本作品は今後も長年にわたり世代を超えて読みつがれると考えられる。